

保育者にとっての絵本体験の重要性

～保育者の資質を高める絵本ノートの活用について～

伊勢 明子・吉村 真理子

The Importance of Reading Picture Books for Childcare Workers —The Use of Picture Book Notebooks to Improve Qualities of Childcare Workers—

Akiko ISE Mariko YOSHIMURA

キーワード：絵本 保育者養成 家庭教育

1. 問題と目的

「幼稚園教育要領」には、幼稚園修了までに育つことが期待される「生きる力」の基礎となる心情、意欲、態度が五つの領域ごとに記されている。その中の「言葉」の領域では「経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」とされ、同「ねらい」の一つには、「日常生活に必要な言葉がわかるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる」とある。また、ねらいを達成するための指導「内容」の中には、「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」とある。

幼児は、絵本の世界での体験を自分の実体験と照合し再認識したり、未知の体験を絵本の世界で体験したりすることで自らの想像力を豊かにしていく。幼児の知的・情緒的発達にとって、絵本の読み聞かせは大変重要な活動なのである。

幼児が絵本の読み聞かせを体験する場とし

ては、家庭という私的な場と、幼稚園や保育所などの公の場とがある。

家庭で幼児が保護者に絵本を読んでもらう意義として、保護者の生の声による読み聞かせが、就寝時などの親子のスキンシップ（触れ合い）を生むとともに、絵本の内容について親子で共感し、対話するという体験の共有ができるということがある。

一方、保育者に絵本を読んでもらい、クラスの皆と楽しむことの意義としては、家庭での限られた言語体験を広げ、豊かな言葉を育むことができること、クラスの皆と楽しさを共有することでクラスの一体感が生まれるということなどが挙げられる。さらに、絵本の世界を共有することで、新たな遊びが生まれることもある。例えば、「おおかみと七ひきのこやぎ」や「おおきなかぶ」を題材とした劇活動や表現遊びを行ったり、「たんたのたんけん」や「たんたのたんてい」の読み聞かせから宝探しや巧技台を使つての運動遊びに繋がったりというようなことである。

したがって、保育者には、家庭と連携し、

幼児の多様な興味や関心に応じた「幼児と絵本との出会いの場」を設定できるよう、自らの資質を高める努力をすることが肝要であると考えている。本研究では、「保育内容の研究（言葉）」の授業において作成を課した「絵本ノート」の「保育に生かすには」の項目に関する記載が優れている学生3人を選出してインタビューを行い、保育者にとっての絵本体験の重要性について探る。

2. 絵本ノートについて

自由に50冊以上を選書し、自分の好きなノート等にて下記の点についてまとめるよう指示した。

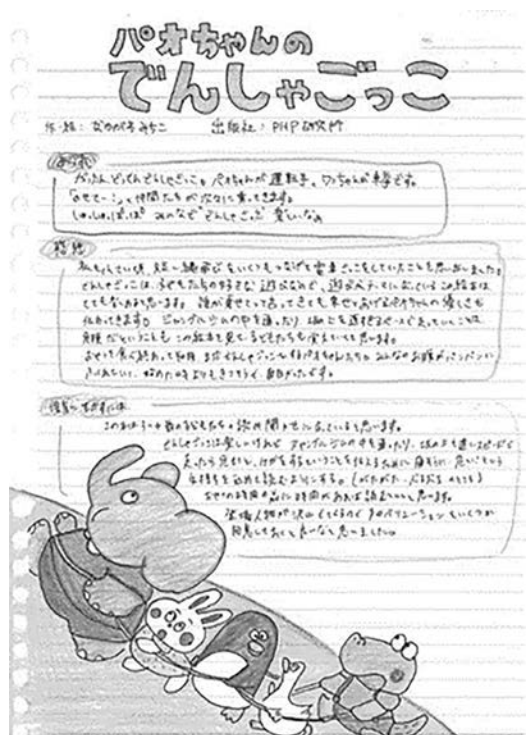
- ・ 題名（できれば絵を描く）
- ・ 著者（文、訳、絵）
- ・ 出版社
- ・ 「あらすじ」
- ・ 「感想」

「保育に生かすには」：遊びや活動にどのようにつながるか、遊びの発展など保育者の立場で記入。

絵本ノートの作成を課した目的は、「保育室での読み聞かせに適した本の選び方を知る」「読んだ本の記録をまとめておき、保育実践の場ですぐに活用する」などである。

「保育に生かすには」の項目に関する記載が優れていた学生の絵本ノート3冊を選出した。学生A,B,C 各自の選出理由は下記の通りである。絵本ノートの内容を写真で示す。

① Aさん



- ・ 目次を作成しており、検索しやすい。
- ・ 表紙の絵や文の楽しさ等の観点から、さまざまな種類の絵本を選んでいる。
- ・ 絵が絵本の特徴をよく捉えている。
- ・ 「あらすじ」「感想」「保育に生かすには」の3項目が色分けして、見やすく整理してある。
- ・ 「感想」の内容が充実している。よく読み込み自分の気持ちや考えが豊かに書かれている。
- ・ 「保育に生かすには」には、保育の展開を細かく想定し、子どもたちに伝えたい願いや思いが書かれている。

① A さん

【幼少期の絵本環境（家庭）】

- ・絵本が多くあった。母自身も絵本が好きで、最近もプレゼントされたほどである。
- ・1歳のお誕生日に、自分が主人公の絵本を作ってもらった。
- ・枕元にもたくさんの絵本が置いてあった。寝る前に好きな絵本を持っていくと、父も母も読んでくれた。父は一緒に楽しみ、「この本面白いな」等の感想を言う。母は、夕食前でも頼めば読んでくれた。
- ・祖母も昔話を読んでくれた。
- ・幼稚園で配付される月刊絵本を読んでもらった。
- ・兄（3歳上）が好きな「ぐりとぐら」シリーズを一緒によく読んだ。兄は二人で一緒に何かを乗り越える「ぐりとぐら」シリーズが好きだったようである。

【幼少期の絵本環境（幼稚園）】

- ・絵本が多くあった。保育室だけではなく、職員室にもあった。
- ・月刊絵本の読み聞かせはあったが、一斉保育での絵本の読み聞かせはそれほど多くなかった。
- ・ミッション系の幼稚園なので、クリスマス関連の絵本を多く読んでもらった。

【好きだった絵本の選書理由】

「おばあさんのスープ」

（あらすじ）森のおばあさんが作ったスープを訪ねてきた動物たちに次々と分け与え、皆でおいしくいただく。

読後に「人に優しくする」ことが大事と繰り返し言われてきた。今思うとありがたい。言ってくれなかったら「おばあさんは優しい

な」という感想で終わってしまい、「自分も人に優しくしよう」とは思えなかったと思う。

② B さん

【幼少期の絵本環境（家庭）】

- ・イソップ物語等、同じ話を繰り返し読んでもらった。「赤ずきんちゃん」は暗記していた。
- ・枕元に絵本がたくさんあった。
- ・仕掛け絵本（時計・ハンドルつき）が好きだった。

【幼少期の絵本環境（幼稚園）】

- ・絵本の貸し出しがあり、保護者が絵本カードに感想を記入したものを抜粋して先生がお便りにして紹介してくれた。絵本の世界では、花は自分で水を飲み栄養をとって生きられるが、実際の世界では人が水をやらないと花は咲くことができないということに疑問を持ったことが掲載され、嬉しかった。
- ・先生が読み聞かせしてくれた本を借りて、家で母に読んでもらうのが好きだった。

【好きだった絵本の選書理由】

「かわいそうなぞう」

（あらすじ）第二次世界大戦が激化し、上野動物園では空襲で檻が破壊された際の猛獣逃亡を避けるため、猛獣の殺処分を決定する。動物園の人気者だったゾウのジョン、トンキー、ワンリーは毒餌も食わず、毒薬を注射しようにも硬い皮膚に針が折れてしまうため、餌や水を与えるのを止めて餓死させることとなった。ゾウたちは餌をもらうために必死に芸をするが、ジョン、ワンリー、トンキーの順に餓死していく。

先生が読み聞かせしてくれた本を家で読ん

でもらいたいと思って借りて帰った。母が物語の時代背景を説明してくれて理解しやすかった。お母さんが「平和はいいねえ」と言っていたことを良く覚えている。

③ C さん

【幼少期の絵本環境（家庭）】

・絵本がたくさんあった。好きな絵本は母が必ず買ってくれた。父は仕事が忙しく、あまり子育てには関われなかった。

・寝るときに祖母が絵本を読んでもくれた。絵本は枕元のそばにあった。読み聞かせは大事とって朗読を習いに行ってくれた。祖母とはよく森へ散歩に行き、木や草花のことを教えてもらった。今でも自然の中を歩くことは好きである。

・一人っ子なので、一人で絵本を音読することも好きだった。

【幼少期の絵本環境（保育所）】

絵本コーナーのそばに、自分一人の世界に入り込めるような場所があった。

【好きだった絵本の選書理由】

「はじめてのおつかい」

（あらすじ）5歳のみいちゃんはママから赤ちゃんの牛乳を買ってくるおつかいを頼まれ、百円玉を2つ握りしめて、坂のてっぺんにあるお店まで向かいます。道中どきどきのみいちゃんは坂で転んでしまい、手足がじんじん、百円玉はころころ。お店では声を振り絞って「ぎゅうにゅう ください！」と叫びますが、なかなかお店のおばさんに気づいてもらえません。ようやく牛乳を買うことができたみいちゃんはほっとして、ずっと我慢していた涙

がぼろりとこぼれます。帰り道、坂の下で、ママが赤ちゃんを抱っこして手を振っていました。

登場人物のおばさんがこわかった。思ったことが言えない子どもだったので、勇気を振り絞って買い物をして帰り、転んですりむいた膝に絆創膏を貼ってもらいながら牛乳を飲んでいるみいちゃんを同一視していた。林明子さんの絵が好きだった。

4. まとめと今後の課題

インタビュー結果から3人に共通する特徴として下記の3点が挙げられる。

①幼少期の絵本環境（特に家庭）が豊かである

- ・絵本が多くあった ABC
- ・枕元に置いてあった ABC
- ・母だけでなく、父や兄、祖母が読んでくれた ABC

・1歳の誕生日に、自分が主人公の絵本を作ってもらった A

全家庭において多くの絵本があり、また枕元にも置いており、寝る前のひととき、家族の誰かとの読み聞かせの時間を持っていた。

②家庭で絵本に関する要求に応じてもらう機会が多い

- ・食前でも読んでくれた A
- ・同じ話でも繰り返し読んでくれた B
- ・欲しい絵本は買ってくれた C

子どもからの働きかけに応答することの真摯さには脱帽である。子どもが同じ絵本を何回も読んでもらいたがることは良く言われることだが、実際にそれに喜んで応えている親

がどれぐらいいるだろうか。子どもが絵本の世界に入り込み楽しむ体験は、読んでもらうごとに毎回違うのである。豊かな想像力を育む体験が、児童期以降の本格的な読書力の基礎となるといえよう。

③好きだった絵本の選書理由が明確であり、思い出が深く心に残っている。Aさん、Bさん、Cさんの例を見ても1冊の絵本が子どもに与える影響の大きさを感じさせられる。

①②③のいずれからでも、当然ながら家庭での絵本環境の豊かさが絵本への関心に大きな影響を与えと言えよう。父母や祖父母の我が子（孫）に絵本を与えたいという積極的な姿勢や思い、言葉かけが、子ども（孫）の豊かな絵本体験を作っていくと言えよう。つまり、保育者は、家庭への絵本や読み聞かせに関する啓発活動を行うことが重要なのである。具体的には、クラス便りを活用し、園で読み聞かせた絵本、子どもたちの反応、読み聞かせから発展させた遊び等について紹介したり、保護者にお話し会や絵本ボランティア活動（読み聞かせや図書の整備等）への参加を呼びかけたりすることなどが挙げられる。園から家庭へ、絵本の楽しさや子どもの育ちを定期的に伝えていくことにより、子どもと保護者が絵本の楽しさを共有でき、家庭での絵本体験を豊かにするヒントが得られるであろう。また、絵本に関するさまざまな活動に保護者を積極的に誘い、絵本に関する知識や理解を深める機会を提供していくことも重要である。

一方、絵を描くことが苦手等で、絵本ノー

ト作成の課題になかなか積極的に取り組めない学生が、多くの絵本に触れ親しむようにするためには、どうしたらよいのだろうか。絵は直筆でなくコピーした物でも良いとしていたが、ほぼ全員が直筆で描いていた。

改善策としては、下記のような点が挙げられる。

① 題名、著者（文、訳、絵）、出版社、あらすじ、感想、「保育に生かすには」の各項目を絵本の特徴をとらえた絵は、コピーでも手書きでもよいと指示を徹底する。

② 授業中、学生に好きな絵本を1冊選書させ、学籍番号順に読み聞かせをさせているが、その際に他の学生の読んだ絵本を記入する時間を確保する。

③ 絵本ノートの中間報告会を設け、互いに刺激を受け合う機会とし、絵本ノート作成のモチベーションを高める。その際、進度の遅れている学生には指導・助言を行う。

④ 入学前課題として、推薦入試合格者に対して絵本ノート作成を課す。

筆者（伊勢）は、着任して6ヵ月の新任教諭が「就職すると日々の仕事に追われてしまう。学生時代に教材作りや絵本の読み込みをして、もっと自分の財産を作っておけばよかった。一回やっただけ、一度読んだだけではいざ子どもの前で実践しようとしてもなかなかできないものである。」と話すのを聞いた。これから保育者となる学生たちには、絵本を通して子どもたちに豊かな感性や想像力を育めるような絵本の選書や読み聞かせを是非学んでもらいたいと考える。保育に生かすという観点を持ち、記録しながら絵本を読むことを

早い時期から習慣づける指導を今後も行っていきたい。

〔参考文献〕

- ・グリム、フェリクス・ホフマン、瀬田貞二
おおかみと七ひきのこやぎ 福音館書店
1967 年
- ・林原玉枝 おばあさんのすーぷ 女子パウロ
会 1990 年
- ・文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベ
ル館 2008 年
- ・中川李枝子、山脇百合子 たんたのたんけん
学習研究社 1971 年
- ・中川李枝子、山脇百合子 たんたのたんてい
学習研究社 1975 年
- ・トルストイ、佐藤忠良、内田莉莎子 おおき
なかぶ 福音館書店 1966 年
- ・土家由岐雄、武部本一郎 かわいそうなぞう
金の星社 1970 年
- ・筒井頼子、林明子 はじめてのおつかい 福
音館書店 1977 年